

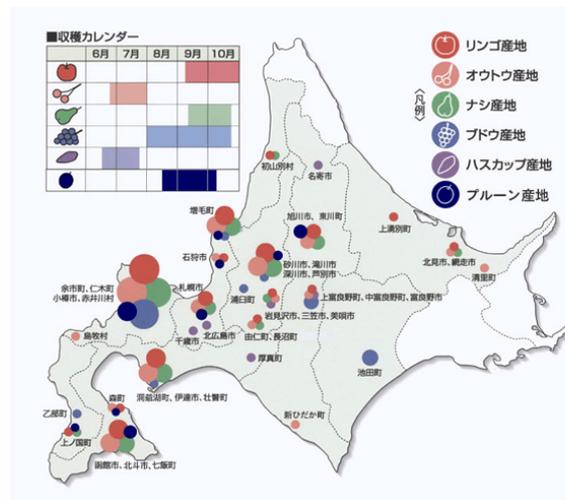
# 第 1 章 後志地方の果樹

寺嶋 優駿

## 1.1 後志地方における果樹の概要

北海道の農業総生産額は、全国の約 12%で全国 1 位の数字である（2016 年）。しかし、果樹生産額は、全国の 1%未満で全国 33 位である。全道の農業生産額に占める果樹生産額の割合は 0.6%ほどに過ぎないが、その 6 割ほどを後志地方の余市町と隣の仁木町で占めている。余市町の耕地面積のうち 8 割ほどが果樹園であり、一般に果樹栽培が盛んではない北海道において、非常に特異な農業地域と言える。北に暖流の日本海流の流れる石狩湾があり気候は穏やかで、西には冬の季節風を遮る積丹山塊があり、厳冬期には果樹を凍害から守るのに十分な積雪がある。東には小樽、札幌という大消費地を間近に控えていることが主な理由である。

図 1-1 北海道の果樹産地



出所：北海道果樹協会 HP

表 1-1 全国の主な果樹の出荷量（2016 年）

	みかん	りんご	和なし	洋なし	かき	びわ	もも	すもも	さくらんぼ	ぶどう
全国	44600	38600	12800	1580	21400	1440	10600	3060	4820	18100
北海道	-	598	49	87	-	-	12	153	561	1140
東北	-	28700	1600	1250	2690	-	2840	579	3680	2940
北陸	33	208	869	116	1430	2	283	9	45	476
関東	1440	8670	5370	118	2850	164	4700	1470	510	7570
東海	8600	100	819	-	3530	40	347	16	-	680
近畿	8810	26	326	1	5160	98	909	323	9	1070
中国	2960	211	1500	8	1720	64	832	75	-	1920
四国	8710	9	491	-	1290	201	371	107	-	480
九州	14000	-	1790	1	2780	866	310	316	-	1810
沖縄	104	-	-	-	-	3	-	2	-	2

農林水産省 HP より筆者作成

## 1.2 北海道の果樹栽培の歴史

北海道の果樹で最も古い歴史を持つのは、和なしであり、江戸時代の享保年間（1716年～1736年）に市渡村（現在の大野町）に植えられていた記録が残っている。

明治時代に入ると、北海道での果樹栽培の基礎が築かれる。1868年、ドイツ人のガルトネルは、蝦夷と周辺農民に西洋農法を享受するという前提の下で条約を結んだ。現在の七飯町に農場を開き、ここにりんご、洋なし、ぶどう、さくらんぼなどを植えた。しかし、明治政府は、北海道が外国に植民地化される

ことを恐れ、多額の賠償金を支払いこの条約を破棄することになる。ガルトネルは、1872年に帰国するが、彼が植栽した果樹は開拓使に受け継がれた。現在は、彼が植栽した人口のブナ林は今でも残されており、北海道の果樹栽培の基礎を築いた人物として評価されている。

西洋なしは1868年、ガルトネルが現在の七飯町に導入した後、開拓使はアメリカから「バートレット」、「ブランデーワイン」など53品種の苗木を輸入した。現在、この2品種を含む15品種ほどが栽培されており、独特の肉質と芳香を持った西洋なしの栽培が増えている。

りんごの本格的な導入は、1874年で、開拓使がアメリカから75品種の苗木を輸入した。この中には、日本の基幹品種となった、「国光」、「紅玉」、「祝」などが含まれており、国内りんご生産の礎となった。その後、導入された苗木は、果樹栽培に適した北海道の気候、風土に順調に定着し、改良や新品種開発などの努力がされてきた。

さくらんぼは、開拓使が「ナポレオン」、「高砂」、「日の出」をはじめ25品種を導入して以来、北海道民に広く親しまれてきた。北海道のさくらんぼは梅雨による劣化が少ないこともあり、市場での評価が高く、栽培面積は増加傾向にある。

図 1-2 ガルトネルブナ林



出所：じゃらん net

## 1.3 現在の後志地方の果樹栽培

### 1.3.1 後志地方で栽培される主な果樹

#### ①りんご

後志地方は、りんごの産地として、気候風土に恵まれているため、果実が硬く引き締まり、秋には昼夜の寒暖差が大きいいため、色付きもよい。りんごのほっぺ（JA余市）などの加工品にもなっている。

表 1-2 後志地方で栽培されるりんごの品種

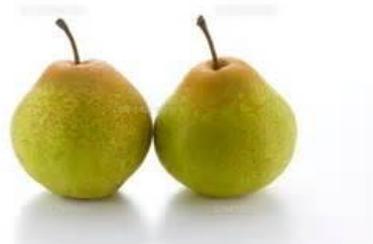
つがる	ゴールデンと紅玉の交配種で、青森県りんご試験場で誕生した。果皮は黄緑色の地色に太い縦線が入り、上が薄く着色していて、果汁が多く、酸味がない。
ハックナイン	北海道立中央農業試験場で「ふじ」と「つがる」の交配・育成品種として誕生した。果実の大きさは 350g 前後、果形は長方形で、果皮は黄緑の地に赤くかすり状か、縞状に着色している。きめ細かい果肉は果汁に富み、歯触りも抜群で、甘みとさわやかな酸味とのバランスが取れているのが特徴である。
あかね	紅玉とウースターの交配種で、果皮は鮮やか紅色で、さわやかな酸味があり、硬めである。
ひめかみ	「ふじ」「紅玉」の交配種、果重 300g 前後で、果皮は黄緑地に全面が鮮紅から濃紅着色している。果肉の色は黄白、果肉はやや硬く、蜜は多く甘味と酸味のバランスが良く、食味が良好である。
レッドゴールド	「ゴールドデリシャス」と「リチャードデリシャス」の交配種で、果皮は全面が濃紅色に覆われていて、果肉は果汁に富み、甘みあふれる蜜入りりんごとして品質・外観とも優れたりんごである。
玉林	「ゴールドデリシャス」に「印度」を交配育成したもので、果皮は緑黄色で果点が大きく目立つが、熟期が進むと美しい黄色になる。果肉は黄白色でやや硬くきめ細やかで、果汁が多く、酸味は少ないが甘く芳香がある。
ふじ	「国光」と「デリシャス」の交配種で、果実は円形か長円形で、果肉は黄白色でやや硬くて綿密である。果汁が多く、甘みと酸味がうまく調和している。
昂林	ひじと片親は不明だが、交配選抜された品種である。果肉は黄白色、多汁肉質は緻密で硬く蜜がよく入り甘酸適和で食味は良好である。

JA 余市 HP より筆者作成

## ②なし

後志地方でもなしの生産の歴史は古く、特に明治中頃に生まれた千両梨という品種は、余市独特のものである。果実は大玉で黄緑色で普通の梨とは違い、若干青いうちに食べるとしゃきとした程よい歯ごたえを楽しめる。肉質は甘味が多く特有の香りを持っている。また、ブランデーワインやグランドチャンピオンなどの洋なしの栽培も盛んにおこなわれている。

図 1-3 千両梨



出所：JA 余市 HP

### ③ さくらんぼ

北海道に位置する、後志地方では、梅雨がなく好天続きで晴れた日が多く、夜は涼しいという、さくらんぼを栽培するのに適した自然条件がそろっている。その中から生まれた、さくらんぼは、高品質の商品として扱われ、全国に出荷されている。

表 1-3 後志地方で栽培されるさくらんぼの品種

水門	生粋の北海道生まれのさくらんぼで、本州では「北光」「北海ナボ」とも呼ばれている。果実は7gくらいで大きく、果皮は鮮やかな紅色で果形は果頂部が尖っている。また、肉質は柔らかくて食味もよく、余市では7月上旬に収穫される。
南陽	山形県で選抜育成された品種で、余市では7月中旬に収穫される。大玉の楕円形で糖分も多く、肉質が硬くて果汁が多いのが特徴である。色は美しいサフランピンクである。
佐藤錦	山形県で「ナポレオン」と「黄玉」の組み合わせによって交配されたさくらんぼの中でも代表的品種で、余市では6月下旬に収穫される。果実は6~7g、短いハートの形で甘みに富んでいて、果皮は帯黄色地の美しい鮮やかな紅色である。
紅秀峰	山形県で「佐藤錦」と「天香綿」を交配育成した品種で果肉が硬く、酸味の少ない濃厚な味である。全国的に栽培が増えており、余市では佐藤錦に引き続き収穫される。

JA 余市 HP より筆者作成

### ④ ぶどう

秋の味覚として、有名な余市のぶどうは、生食用はもちろん、ワイン用に適する醸造用としても栽培されている。そのため、余市町のぶどうの生産は、他の果樹に比べて一番多い。

表 1-4 後志地方で栽培されるぶどうの品種

キャンベル・アーリー	寒暖両地でできる日本ではおなじみの品種で、果房は黒色で、果粒は円形で大きいのが特徴である。酸味も適度で特有の香りをもっている。
ナイヤガラ	果実は円筒型または円錐型であり、熟すると淡黄色になり、白色に覆われている皮も少々厚く、貯蔵性に優れ、特有の風味があるぶどうである。
旅路	果皮が鮮やか紅色で、縦に白いストライプが入っているのが特徴で、粒は中位で甘く、種がない。見た目も美しく食味が良いため、全国から注目されている品種である。

JA 余市 HP より筆者作成

### 1.3.2 観光と果樹

#### ①フルーツパークにき

仁木町で自然と果物にふれながら過ごせる場所として誕生したのが、国内でも珍しい果物をテーマにした農村公園「フルーツパークにき」である。ここでは、仁木町名産のさくらんぼ、りんご、ぶどう、といった果物はもちろん、ラベンダーやコスモス等の花々を栽培する他、遊具、レストラン、地域特産品販売所、宿泊施設も完備されている。また、夏にはさくらんぼフェスティバル、秋にはうまいもんじゃ祭りといったイベントも開催されている。さくらんぼの種飛ばし大会や、ぶどうの皮飛ばし大会などユニークな催し物があることにも注目だ。

図 1-4 フルーツパークにき



出所：じゃらん net

#### ②味覚の祭典「よいち大好きフェスティバル」

余市を代表する秋の味覚が堪能でき新鮮な果物や、海の幸、山の幸、水産加工品等の格安販売、ワインバルやウィスキーバーなどお酒を楽しめるコーナーも、模擬店も多数出店し、ヤン衆鍋の格安提供、その他無料コーナーも用意されている。また、毎年大好評の余市特産品争奪ビンゴ大会や北海ソーラン太鼓演奏会などステージショーも開催され、子どもたちが遊べるコーナーなど一日を通して家族連れで楽しめるイベントである。

図 1-5 よいち大好きフェスティバルの様子



出所：余市観光協会 HP

#### ③観光農園

日本ではじめてりんごを実らせた余市町、隣町の仁木町にはたくさんの観光農園がある。例年6月～10月にかけてりんご、さくらんぼ、ぶどう、なし、プラム、いちご、ももなどのフルーツ狩り、農業体験などが楽しめ、家族連れやカップル、お年寄りなど老若男女問わず楽しむことができる。また、札幌や小樽とのアクセスも比較的簡単なため、日帰りフルーツ狩りツアーなどが行われていて、多くの観光客を呼んでいる。藤本観光農園や山本観光果樹園は、ニッカウキスキー工場や、宇宙記念館とともに観光スポットとしての役割を果たしている。

## 参照 HP

- ・ JA 余市 HP

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/image.jsp?id=111837>

- ・ じゃらん net

<http://mame-news.net/pc/archives/1374>

- ・ 仁木町 HP

<http://www.town.niki.hokkaido.jp/>

- ・ 農林水産省 HP

<http://www.maff.go.jp/>

- ・ 北海道果樹協会 HP

<http://www.hokkaido-kajyu.net/>

- ・ 北海道農政事務所 HP

<http://www.maff.go.jp/hokkaido/>

- ・ 余市町 HP

<http://www.town.yoichi.hokkaido.jp/>